

**巻頭言**

## ETCの今後の展開



南部 隆 秋

ETC（ノンストップ自動料金支払いシステム）については、昨年4月24日に試行運用を開始して以来、一般の方々に一日でも早くETCの利便性と快適性を実感していただくため、関係者とともに一般運用の早期開始に向け努力して参りましたが、約1年間の試行運用を経て、本年3月30日にETCの一般運用を無事にスタートさせることができました。御尽力いただきました関係者の方々には深く感謝の意を表したいと思います。

一般運用開始後、6月末までの約3カ月間で延べ約80万台の方にご利用いただき、最近では一日あたり約10,000台の方にご利用いただいております。

ETCは、ノンストップかつキャッシュレスで料金所を通過でき、料金を支払うために停車する煩わしさが無いというメリットに加え、普及が進むことによって料金所の渋滞が緩和される等のメリットを併せ持つシステムです。また、将来的には、ガソリンスタンド、ドライブスルー等における料金支払いに使うことも研究されている等、さまざまな民間分野への活用も見込まれています。

わが国のETCは、ETC通信周波数の世界標準とされている5.8GHz帯を使用しており、さまざまな分野の技術を総合したうえで、全国統一のシステムとしての利用を可能とするため、電機メーカー、車メーカー、カード会社等多くの企業が参加し、道路事業者と協力しつつ推進しています。

また、高いセキュリティを確保するため、CPU等を内蔵し外部端末機器との相互認証や記録データの暗号処理が可能なICカードを使用し、磁気カードに比べ、より高い安全性を確保しています。また、十分なセキュリティを確保するために高度な暗号も導入していますので、安心してご利用できる環境が整っています。我が国でのETCの導入は、先進国に比べやや遅れていましたが、いよいよ始まった我が国のETCは世界的に見ても最も先進的なシステムと言えます。

ETCを利用するには、ETC専用のクレジットカードと通信を行うための車載器が必要となり、一連の手続きにも若干時間がかかることとなりますが、車載器に車の情報をインプットするセットアップについては5月末よりオンライン化が開始されており、6月末には全国約400箇所まで車載器購入と取り付けを同時に行うことが可能となっています。

ETCは普及が進むに伴い様々な効果が現れます。料金所渋滞の緩和、料金の支払いのために停車する煩わしさ等からの解放、有人料金ブースを減らすことによる大幅なコストの削減、加減速による騒音・排気ガスが軽減されるため環境改善にも効果があります。さらに、全ての車がETCを利用するようになると、首都高速道路のように現在均一料金制を採用している路線に対距離料金制を導入することの検討や、環境ロードプライシングや混雑状況に応じた料金設定、事故や渋滞区間における乗り継ぎ料金の設定等、道路をさらに効率的に利用するためのさまざまな料金施策の検討が可能となります。

現在、ETCは千葉地区を中心とする首都圏と沖縄における63箇所の料金所で運用されていますが、この7月23日には、関東、中部、近畿の146箇所の料金所にETCのサービスが拡大し、秋には東名・名神高速道路、東北自動車道、中央自動車道、山陽自動車道、九州自動車道等の全国約600箇所の料金所に拡大する予定となっており、現在有料道路を利用している方々のおよそ90%がETCを利用いただけるようになります。さらに、平成14年度末までに首都高速道路、阪神高速道路の全料金所を含む全国約900箇所にETCのサービスを拡大する予定となっています。

ETCの全国展開を控え、今後はETCの普及促進が重要となってまいります。特に所期段階において、ETC利用のインセンティブを高めるため、主に一般の利用者を対象として、実施期間を限定した特例割引を行う予定であります。また、恒久的な割引として、前納型割引制度を導入するための前納システムの早期導入や、ETC専用レーンの拡大も進めてまいります。

さらに公団及び民間のご協力を得て、様々なメディアを通じてETCの利用方法、メリット等について広報活動を展開し、ETCの普及をさらに推進していきたいと考えています。

ETCは広く普及してはじめてその利点を最大限に生かすことが可能となります。皆様もぜひ試していただければ幸いです。